

令和 3 年 (2021 年) 2 月 24 日

彦根市議会 議長 安澤 勝 様

紹介議員

馬場 和子

上杉 正敏

北川 元武

辻真理子 中川 睦子

谷口 忠隆 矢吹 安子

彦根市内の各小学校に安定ヨウ素剤の備蓄を求める請願

【請願趣旨】

2月13日午後11時8分頃に発生した、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3、最大震度6強を観測した地震は、東日本大震災から10年を迎えようとする私たちに、改めて地震の恐ろしさと災害に対する備えを思い起こさせました。

隣県にいくつもの原子力発電所が立地するここ彦根市においても、大規模地震が発生した際にはその影響が懸念されています。昨年、北陸地方の三県で震度5弱以上の地震が発生したこともあり、市民の安全安心のためにも、これまで以上に原発事故に対する備えを確かなものとする必要があると考えます。

彦根市では、原子力発電所等の事故により飛散した放射性ヨウ素を体内に取り込むと甲状腺に集積し甲状腺がん等を発生させる可能性から、これらを予防・低減させることができる安定ヨウ素剤を彦根市立病院に備蓄しており、広報ひこねやホームページを通じて市民への周知もしていただいております。

しかしながら十分な抑制効果を得るには、放射性ヨウ素吸入から安定ヨウ素剤服用までの時間は2時間以内が望ましいとされており、現在の彦根市の計画に基づく配布方法では、十分な抑制効果を得られないとの懸念もあります。

長野県松本市では、緊急時に速やかに取り出し配布できるよう、2015年にそれまでの備蓄場所から市内の小学校28校に各学区の住民分を備蓄する見直しをされました。配布と服用は、市の災害対策本部内に設置される本部医務班が国や県からの情報をもとに検討を行った上で、医師や薬剤師が配布に立ち会い、予防服用の実施勧告は市長が決定するとされています。

こうしたことから、彦根市においても各小学校で、児童を含む学区内住民分の安定ヨウ素剤を備蓄していただくことを望むものであります。



安定ヨウ素剤には他の薬剤と同様に、子どもらへの副作用の心配を懸念する声があることも承知しております。しかしアレルギーを含む副作用については、学校というフィルターを通すことで、児童の持病等についてあらかじめ把握することができるものと考えます。

原子力規制庁がまとめた医療関係者用の「安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって」には、UPZ内外も含めて「安定ヨウ素剤は避難や屋内退避の際に、服用の指示に基づき服用する」と明記しています。その上で地方公共団体は、「避難と併せて安定ヨウ素剤を服用する必要がある場合には 集合場所や避難所等において薬剤師等が安定ヨウ素剤を調製できる体制を整備する必要がある」としています。

こうした観点から、災害時の避難所に指定されている彦根市内の各小学校に、安定ヨウ素剤を備蓄することは、医師会等の指示のもと調製が必要な場合も各校の学校薬剤師がその任にあたることができ、速やかかつ安全な服用が可能となるものと考えます。

子どもをはじめ市民が安心して日常生活を送ることができるよう、以下についてお願いいたします。

【請願事項】

彦根市内の各小学校に、児童を含む各学区内住民分の安定ヨウ素剤を備蓄すること

請願代表者

彦根市清崎町11-9
松原 香典



請願者

彦根市長曽根町 5-28-46



木谷 千加子

彦根市鳥居本町 12-78-56

山口 敏子

彦根市栄町 2-5-13

堀田 せつ子

彦根市大藪町 402-2

北村 敏子

彦根市高宮町 2067-94

科栄 千子

彦根市平田町 823-1

桶水 カツ子

彦根市白夏町 2060

三橋 つと子